

平成14年度 英語コミュニケーション・パワーアッププラン  
中学高校英語学習プログラム開発実施要項

1 目的 新学習指導要領の趣旨を踏まえた英語科における指導の在り方を研究開発し、県内の中学校・高等学校の英語の指導の充実を図るとともに、生徒の英語コミュニケーション能力を高めることを目指す。

2 主催 岐阜県教育委員会（学校支援課）

3 事業概要

- (1) 英語科におけるコミュニケーション能力を高める指導の研究を行う教科の実践者を研究協力員とする。
- (2) 研究協力員は研究テーマに基づいて研究を推進し、評価規準を明確にした指導計画の開発と少人数指導等の実践研究を行う。
- (3) 学校支援課（教育振興事務所）の指導主事は研究協力員会を開催し、授業力向上の支援をする。

4 内容

【研究テーマ】 『実践的コミュニケーション能力を高める指導』の研究

【研究内容】

評価規準を位置付けた指導計画の開発と実践研究

(1) 指導計画の開発

学習指導要領に示されている目標や学習内容を、3年間の段階性を踏まえ、生徒に身に付けさせたい資質や能力として具体化する。

単元（題材）の学習内容を構造的にとらえ、観点別学習状況の評価規準を明確にした指導計画を作成する。

(2) 授業改善の工夫（下記の中から、協議して課題を決定する。複数可。）

自主的、自発的な学習を進め、自ら学ぶ意欲を高める指導の工夫

主体的な学習の仕方が身に付く指導の工夫

生徒の主体的な学習活動を中心とした学習過程の工夫

少人数指導等、個の学習状況に応じた多様な指導方法の工夫

自己評価や相互評価する力を高める指導の工夫

一人一人のよさや進歩の状況の評価結果を学習活動に生かす指導の工夫

生徒が身に付けた力を自覚できる多様な評価方法の工夫

5 運営

(1) 研究協力員会

研究テーマ及び内容（4 内容）について各教科の課題を踏まえた実践研究をする。

年間4回、総合教育センターで実施し、研究協議をする。

研究協力員は、各校種・5名程度の教員と学校支援課、研修管理課の中高教科担当指導主事、各教育振興事務所の教科担当指導主事で構成する。

研究の成果をまとめ、各研究協力員及び県内各中学校・高等学校の授業実践に活用する。

( 2 ) 研究協力員

指導計画を開発して、実践を累積する。  
授業研究を行う。

( 3 ) 教育振興事務所

研究協力員の中学校において授業研究への要請がある場合は学校訪問をする。  
日常的な研究相談に応じる。

( 4 ) 学校支援課

研究協力員を依頼する。  
研究協力員会で研究する内容について具体的に提案を行う。  
研究協力員の授業研究を通して支援を行う。  
研究の成果を総合教育センターの研修講座に活用したり、教育課程研究集会や学校支援課のホームページ等で実践事例として紹介し、県内の学校へ広める。

6 期 間

・ 1年間(ただし、継続して「研究協力員」として依頼することもある。)

7 予算措置

・ 研究協力員等の旅費

8 連絡及び問い合わせ先

岐阜県教育委員会学校支援課 英語担当

( 0 5 8 ) - 2 7 1 - 3 3 2 7